

四変整復手術後の農場在籍調査 そこからみえてくるもの

第四胃変位（四変）を手術したお宅の牛はどれだけ経営に貢献していますか。四変に対する農家さんの印象として「乳量が上がってくる」ときの事故みたくないもの」や、「手術すればすぐよくなる」といったようなことが聞かれることがあります。分娩後の食欲不振で治療が続いている

牛に「四変になって手術してもらえば早いのに」と思ったことはないでしょうか。また、食欲不振に対する診療中、獣医師が手術痕を見つけ、その牛に手術歴があることを農家さんが把握していないことも少なくありません。要するに、多くの農家さんは四変という牛の病気に対して

それほど大きな危機的な認識を持っていないものと思われまます。いかがでしょうか。今回、虹別地区において平成22年4月から平成24年3月までの2年間に四変整復手術を行った牛（222頭）が、術後1年後にどれだけ在籍しているかを調査しました。結果は、222頭のうち、82頭（36・9%）が術後1年以内に農場から除籍されていることが分かりました（表1）。

表2について説明します。術後の日数は、四変発生の危険性が一番高いと言われている分娩後1ヶ月内という期間を考慮し、廃用事由について便宜上大きく3つに区分されました。すなわち、①0～14日：四変が直接的な原因となるであろうもの、②15～150日：手術後食欲は回復したが乳量が見込めなかった牛、③151～365日：手術後繁殖成績が悪い牛、としました。結果として、四変が直接的な原因となつて死亡・廃用となった牛は27頭（死亡15頭＋廃用12頭）いました。術後15～150日で自家廃・淘汰となった牛は19頭、同じく151～365日でも19頭いました。

(表1)

	頭数	(%)
死廃・淘汰	82	36.9%
在籍	140	63.1%
	222	100%

(表2)

	術後の日数		
	①0～14日	②15～150日	③151～365日
死亡	15	1	3
廃用	12	8	2
自家廃・淘汰	3	19	19
計	30	28	24
累計	30 (13.5%)		
	58 (26.1%)		
	82 (36.9%)		

今回、虹別地区において平成22年4月から平成24年3月までの2年間に四変整復手術を行った牛（222頭）が、術後1年後にどれだけ在籍しているかを調査しました。結果は、222頭のうち、82頭（36・9%）が術後1年以内に農場から除籍されていることが分かりました（表1）。

今回の結果から、四変整復手術を行い回復せずに死亡・廃用となった牛以外に、治癒となった牛でその後淘汰され、次の乳期を迎えられなかった牛が予想していたより多かったと考えられました。このことから術後、食欲はみられるが、栄養吸収が不十分なため乳量が回復しない、乳質が悪い、肢・蹄が悪い、栄養を蓄えることができず繁殖成績が悪い等

が考えられます。手術では変位した第四胃の位置を元に戻すことはできませんが、組織的、機能的な異常を元に戻すことは意外に難しいことが伺われました。

農場の経営規模、経営方針によって更新率や、農場の四変発生率はそれぞれ異なります。今回のデータは産歴や左方変位か右方変位かも分けていません。よって1年以内の四変整復手術牛の除籍率が36・9%であったという数値には特別な意味はないかもしれません（そして獣医学的意味ありません）。しかし、普段私たちが手術をして牛とカルテを見ているだけでは8～9割の牛が治癒していると思っていたので、1年でこれほど多くの手術した牛が農場からいなくなっているのを知って少々大げさですが驚愕しました。

四変の原因は多々ありますが、原因となった疾病に対する予防や治療をきちんと行うことの大切さを今回の調査で改めて感じました。

明日売りに出すその牛、手術歴ありませんか？

（虹別家畜診療所診療課 杉本 貢紀）